

大学で研究するということ

経営学会 会長 真鍋 誠司

経営学部ならびに大学院国際社会科学研究院・経営学専攻の新生のみなさん、ご入学おめでとうございます。経営学会会員一同、心より歓迎いたします。

現在、世界中の大学が新型コロナウイルス感染症の拡大によって、大きな困難を経験しています。みなさんも、これからの大学生活に対して「こんなはずではなかった」、と大きな不安を抱えているかもしれません。大学生活への期待や希望が打ち砕かれてしまったように感じている人もいることでしょう。やむを得ず、本学もオンラインの授業もしばらくは併用していくこととなりますので、不便を感じることもあるかと思います。本学では、教職員が一丸となって、みなさんの不安をできる限り減らし、希望を叶えたいと知恵を絞っています。

それでは、この状況下でみなさんが学生として大学でできること、すべきこととは何でしょうか。

サークル活動でしょうか。アルバイトでしょうか。もちろん、それらを否定するつもりはありません。豊かな生活を送るためには、必要なことでもあります。ただし、大学・大学院に入学した以上、卒業・修了するまでにぜひ「研究力」を身に付けてください。研究力を培えば、自身で課題を設定し、調査し、論理的に課題を解くことができるようになります。

大学と高校では、大きな違いがあります。それは、大学は教育機関であるとともに、最高学府であり、研究機関であるということです。研究するのは、大学の教員だけではありません。みなさんもまた、研究することを求められているのです。

研究とは何をすることでしょうか。勉強と研究は、何が違うのでしょうか。

これについては、大学の教員間でも、意見が多少異なるかもしれません。しかしながら、誤解を恐れずに言えば、勉強は既存の知識を正確に吸収することで、研究は新しい知識を創ることです。新しい知識を創るといっても、完全な無（ム）から新奇なものを生み出すわけではありません。従来の既存知識を新しく組み合わせたり、既存知識では解けない課題を発見したり、それを解くことが、研究の本質だと私は考えています。ですから、勉強は、研究の礎となるという意味でとても重要です。大学に入学する前にしていたのは、基本的には勉強です。大学に入ってから勉強は続きますが、その勉強は大学での研究に繋がるのだという意識を持ってください。なお、大学院生のみなさんには、大学でのそれよりもはるかに高いレベルを要求されるという、覚悟を持っていただきたいと思います。

大学・大学院では、授業や演習を通じて、定説となったものから最新のものまで、研究の内容を学ぶことができます。特に、経営学会では、研究に役立つ情報を発信し、教員と学生の研究成果を様々な形で発表しています。具体的には、『経営学会ニュース』では、教員や学生のみなさんの大学での活動を紹介します。『横浜経営研究』には、教員の論文、つまり研究成果が発表されます。みなさんの研究成果（卒業論文・修士論文）に対しては、特に優れたものに「経営学会賞」を授与しています。現状に不安を抱えている人こそ、研究力を磨きましょう。今後の人生を実りあるものにする助けになるはずです。みなさんが充実した大学生活を送ることを、切に願っています。